

# 令和5年度 印西市民アカデミーだより 第20号

## 講座 20：歴史散策⑥ 戸定邸他

2月10日(土)、市バスに乗って松戸市にある戸定邸と千葉県西部防災センターを見学しました。

戸定邸は、西に江戸川の流れを望む見晴らしの良い戸定が丘の台地の上にあります。江戸時代の松戸塾は、江戸と水戸を結ぶ水戸街道の宿場町として栄え、隣の小金宿には水戸家専用の旅館がありました。1884年(明治17年)、水戸藩最後の藩主だった徳川昭武が戸定が丘に自分の隠居所として水戸徳川家別邸を構えました。この屋敷は、江戸時代の大名屋敷を伝える数少ない貴重な木造建築です。純和風、木造平屋一部二階建てで、増築を経て、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23を数えます。縄文杉等の最上等の杉材をふんだんに使う一方で装飾を最小限に留めた空間には、静かな気品が漂っています。特に、表座敷棟の四面正目の杉柱や奥座敷等棟の黒柿の床框は一見の価値があります。その戸定邸の一部である「使者の間」が終戦直後に切り離されてその後行方が分からなくなっていました。1996年に印西市発作に移築されていることが分かり、1997年に解体し、不足する材料を同じようにそろえたりして普通の工法で復元されました。欄間には福を呼ぶという「こうもり」が施されています。

戸定邸表座敷棟の南と西には、徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ芝生の庭園が広がっています。洋風技法による芝生面を真南から東側へと連なるコウヤマキと西北部のアオギリが木立をなしてはさみ、南西方向の松の木立越しに東屋があるもう一つの庭園へとつながっています。洋風技法による芝生面は我が国最古で、樹林の木立を主景観に取り入れる手法は類例がありません。当日は、この庭園に下りられる日ということで、日陰に雪が残る絶景のロケーションのなかを散策することができました。かつて7万㎡を超えていた敷地の3分の1が戸定邸が丘歴史公園となっています。園内には、クスノキやヒヨクヒバの巨木が残り、梅やベニシダレザクラなど四季折々の花々を楽しめます。

公園内で昼食を済ませた後、近隣にある千葉県西部防災センターに向かいました。当センターは、災害から暮らしや街を守るための情報や体験を楽しみながら学ぶことができる施設です。おりしも能登半島地震による大規模災害が発生している現状から関心が高く熱心に取り組みました。



戸定邸表座敷棟の前で集合写真



洋風技法による芝生庭園



使者の間の欄間のこうもり



戸定邸が丘歴史公園の梅園



西部防災センター



地震体験



暴風体験



胸骨圧迫体験



消火体験



7日分の食料確保



通報体験